

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

令和5年7月26日～28日

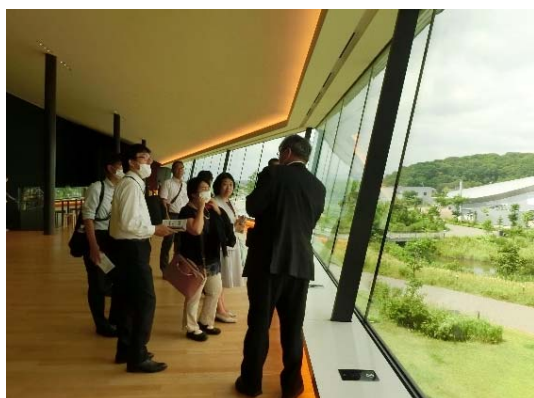
■北海道札幌市 『札幌市民防災センターについて』

市民の防火・防災意識の向上を図ることを目的とした施設で、消防署と併設されており、2階から消防署の車庫内を見学でき、出動の際はその様子を実際に見ることができる。地震体験、煙避難体験及び消火体験などが無料で体験でき、親子で防災意識を向上させる良い入り口となっている。

市民が関心を持ち、防災力を高めるにはとても良い施設であった。本市も防災教育や市民の災害に対する意識の醸成に向けてさらに研究していく必要性を感じた。



■（公財）アイヌ民族文化財団（北海道白老町）『ウポポイ（民族共生象徴空間）について』



ウポポイ（民族共生象徴空間）は、日本の貴重な文化でありながら、存立の危機にあるアイヌ文化の復興・創造等の拠点として、先住民の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会を築いていくための象徴となる空間。国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設により構成されている。

正しく伝えるための難しさや資料の保管のための環境整備などの苦労話を聞くことで国や県との連携の必要性を感じた。

■北海道札幌市 『札幌ドームについて』

当初は、サッカーワールドカップを誘致するために、屋根無しサッカー専用スタジアム建設する動きがある中で、雪の影響と維持費の問題を民間のアイデアで解決し、通年利用が可能な多目的なドームとして誕生し、北海道コンサドーレ札幌の本拠地となった。

本市に建設予定の多目的交流拠点とは規模も環境も違うため比較は難しいが、試合が無い日のアリーナ利用という点などを参考にし、他のアリーナや、体育館の事例も研究必須であると感じた。

